

滋賀の医療福祉・在宅医療

湖南圏域医療福祉ビジョンの推進について

令和7年7月3日 草津保健所

湖南圏域医療福祉ビジョン(見える化バージョン)

目指す地域医療福祉の姿 「一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる湖南圏域」

湖南圏域(南部地域)では、「一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる湖南圏域」を実現するために、「住民」「地域」「医療福祉」のそれぞれの目指す姿、現状をまとめ、実現のためになにができるかということが一目でわかるように、令和4年度に「**湖南圏域医療福祉ビジョン(見える化バージョン)**」を作成しました。令和6年度には各指標について評価を行い、今後重点的に取り組むことを整理しています。

住民のみなさんの健康づくりや地域づくり、医療関係者の皆様の日々の取組が、目指す姿への一步一步の着実な歩みとなっていることを実感していただき、さらに歩みを進めていただければ幸いです。



滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる湖南圏域

			一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる湖南圏域		
			I. 健康	II. 医療	III. 在宅
			一人ひとりが健康的な習慣を身につけ、病気を予防したり早期発見することができている	誰もが望む場所・方法で安心して医療福祉サービスを受けられる	高齢者をはじめとする誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らし、本人が望む形で人生の最期を迎えることができる
	目指す 住民 の姿		一人ひとりが健康維持や病気の予防に必要な知識や習慣を身に付けており、自分や家族の健康を守るために行動している	一人ひとりが医療サービスに関する正しい知識を持ち、適切な方法で不安なく受診や治療、入退院を行っている。	本人や家族が望む生活や最期を思い描き、そのために自ら様々な活動を行うとともに必要な医療・介護サービスを適切に利用している。
	目指す 地域 の姿		住民が暮らす地域や、企業や事業所などの働く場において、様々な年代や背景を持つ人が健康を維持するための積極的な支援が行われている	診療所や薬局、福祉事業所など、地域の医療福祉機関が連携し、住民の受診や治療、入退院を支えている。	認知症をはじめとした様々な病気や障害を持つ人や高齢の人、そしてその家族を地域全体で見守り、支えあいながら暮らし続けることができる
	目指す 医療福祉 の姿		医療機関や行政の連携により、すべての住民が健康を維持し、病気の予防や早期発見を行うために必要な支援体制が整えられている。	5 疾病5事業および在宅医療の医療連携体制が構築され、誰もがが必要な治療やサービスの提供を受けることができる。	望む場所で治療を受けながら生活し、最期を迎えることができるように支援する体制や制度が整っている

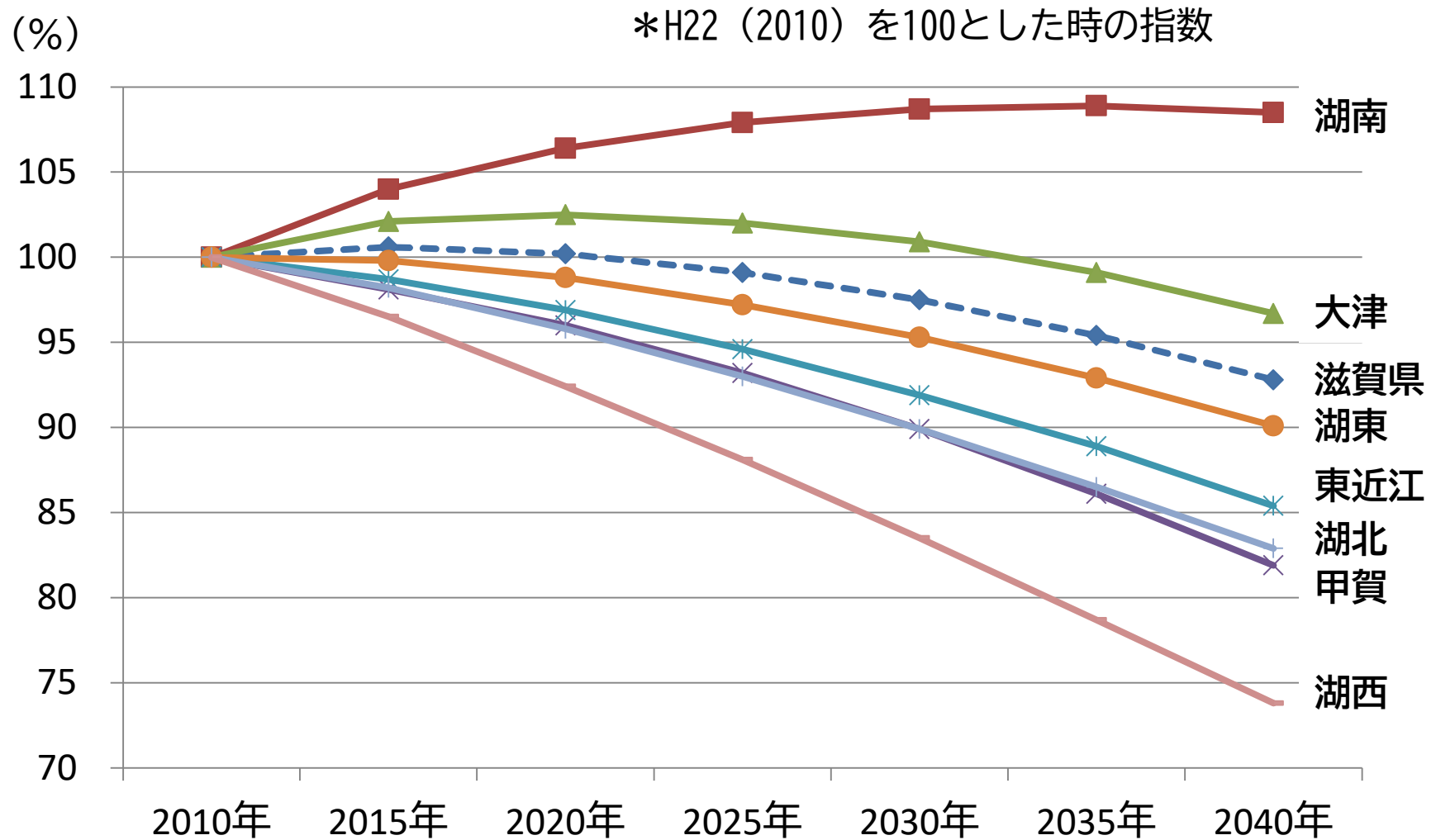
二次保健医療圏と高齢化率



区分	構成市町数	総人口（65歳以上）	高齢化率	2040年 高齢化率 推計
大津圏域	1市	345,042人（93,485人）	27.8%	35.4%
湖南圏域	4市	352,181人（76,945人）	22.5%	28.8%
甲賀圏域	2市	140,379人（39,683人）	28.1%	35.4%
東近江圏域	2市2町	223,798人（63,286人）	28.3%	34.4%
湖東圏域	1市4町	152,959人（39,941人）	26.9%	33.4%
湖北圏域	2市	146,484人（43,423人）	29.8%	36.8%
湖西圏域	1市	44,402人（16,590人）	37.2%	46.1%
全県域	13市6町	1,405,245人（373,353人）	27.2%	33.7%
*75歳以上人口；202,914人 割合；14.8%				
全国（概算）		12,409万人（3,620万人）	29.2%	

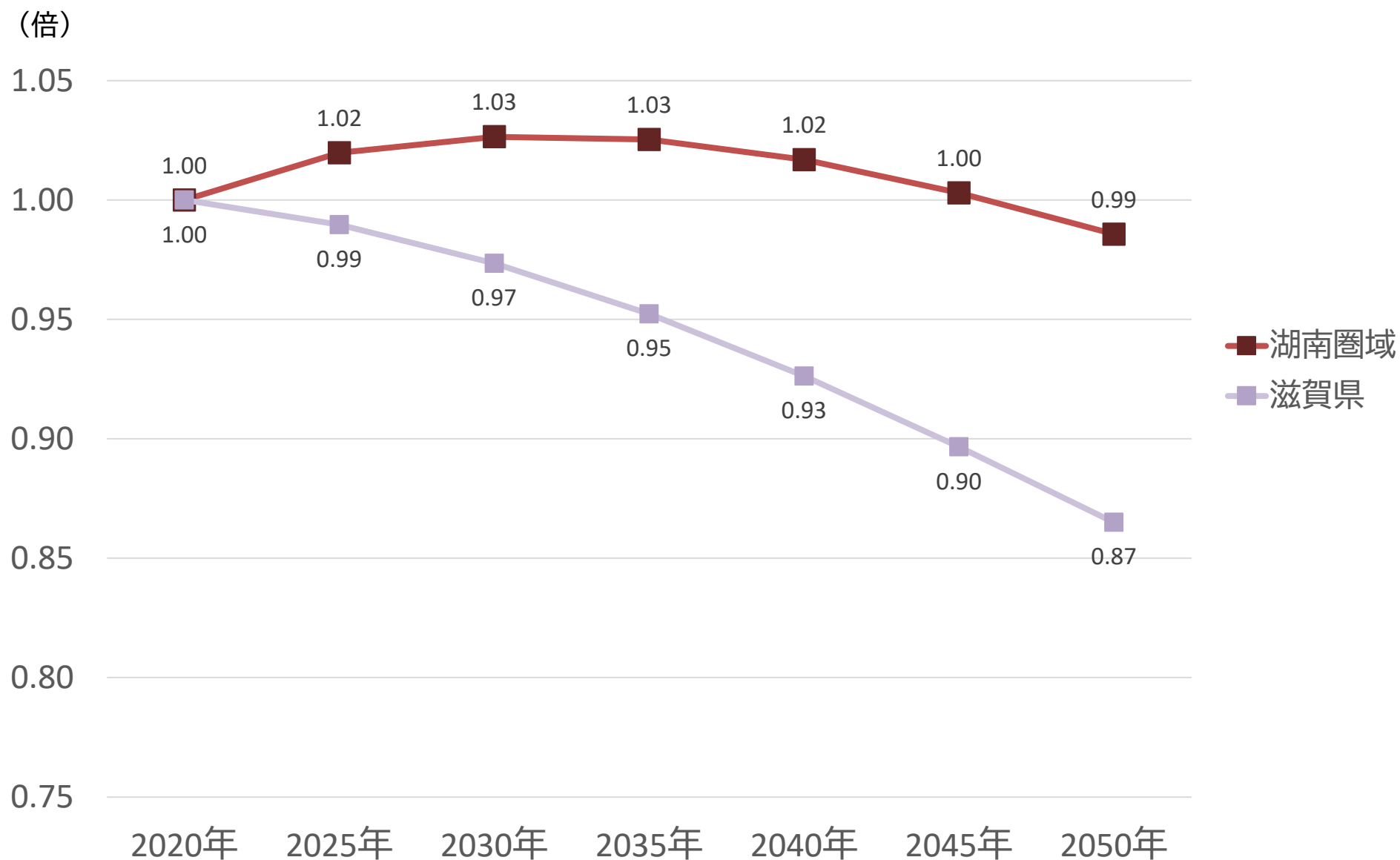
（令和6年（2024年）1月1日現在）

圏域別総人口の将来推計

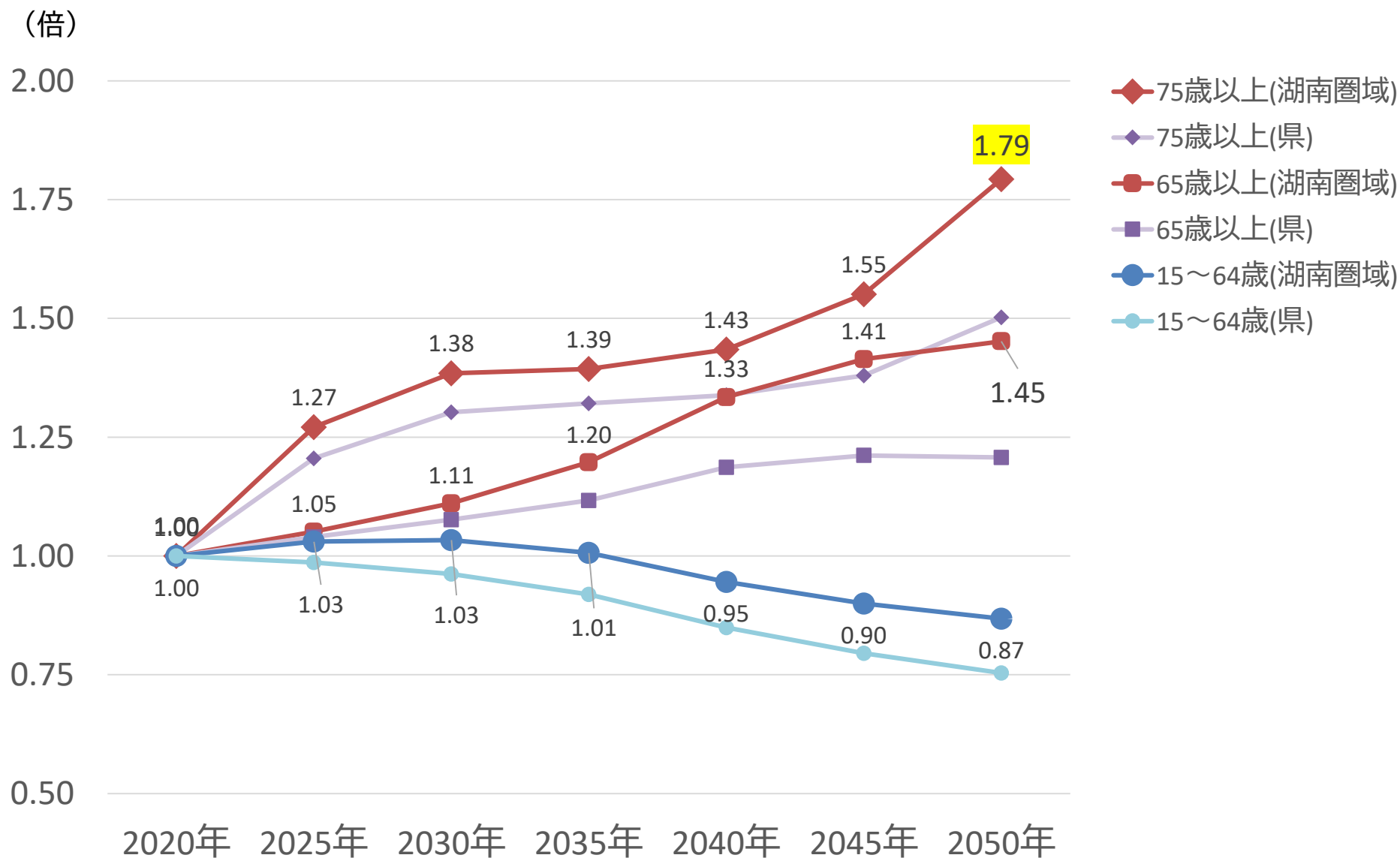


国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

湖南圏域の総人口の将来推計



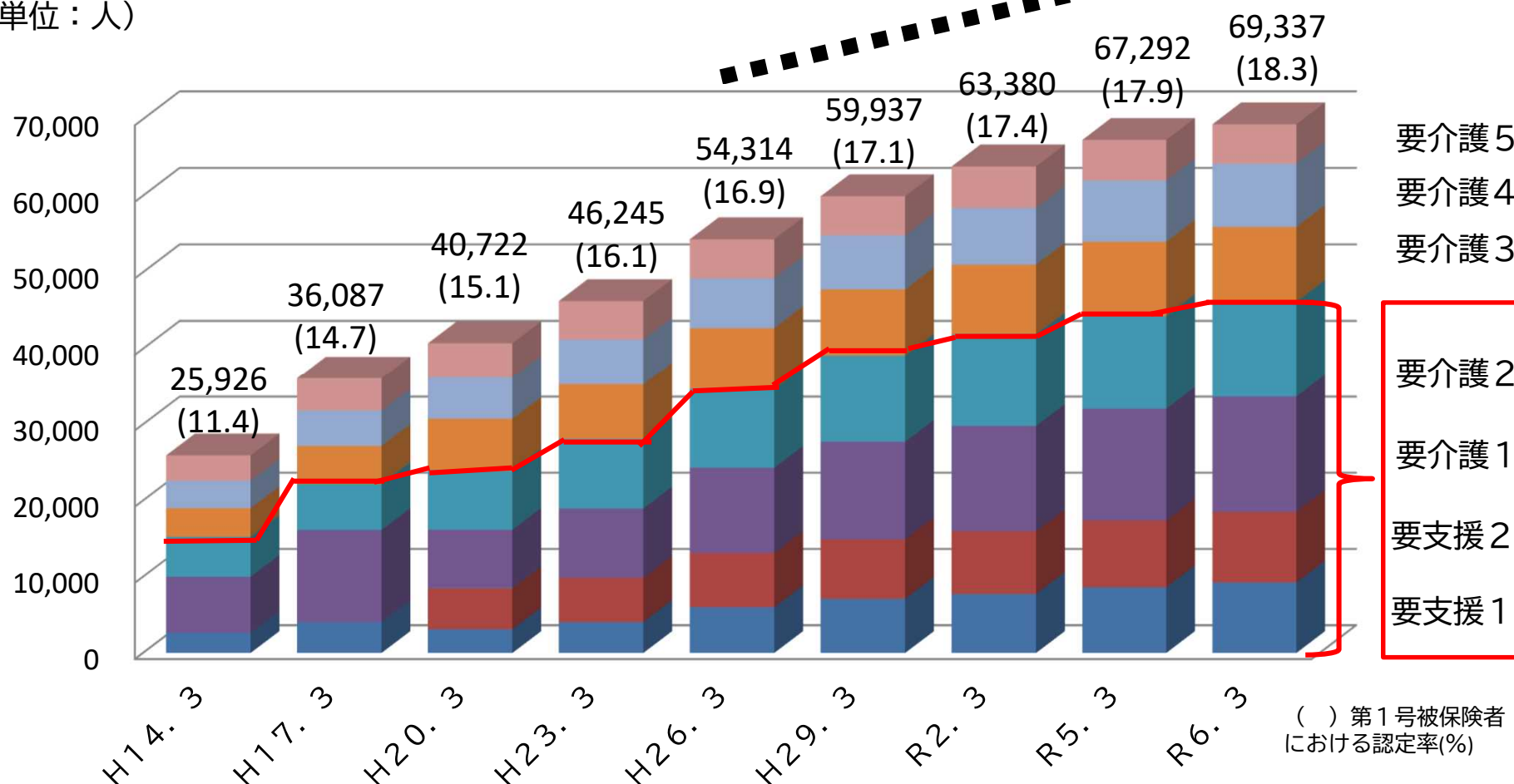
年齢区分別の人口推計



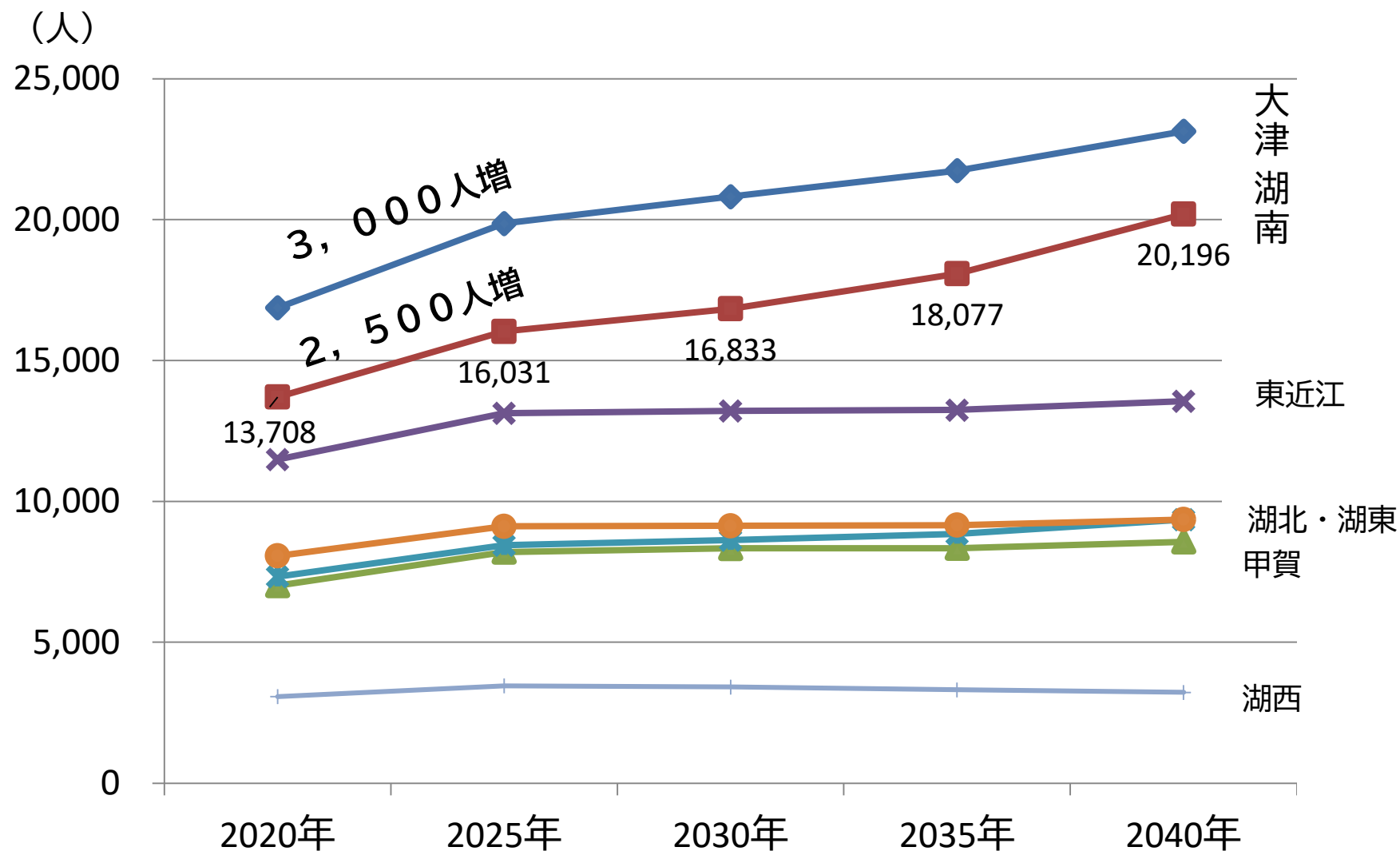
滋賀県における要介護度別認定者数

10年間で約15,000人増え、今後も増加！！

(単位：人)

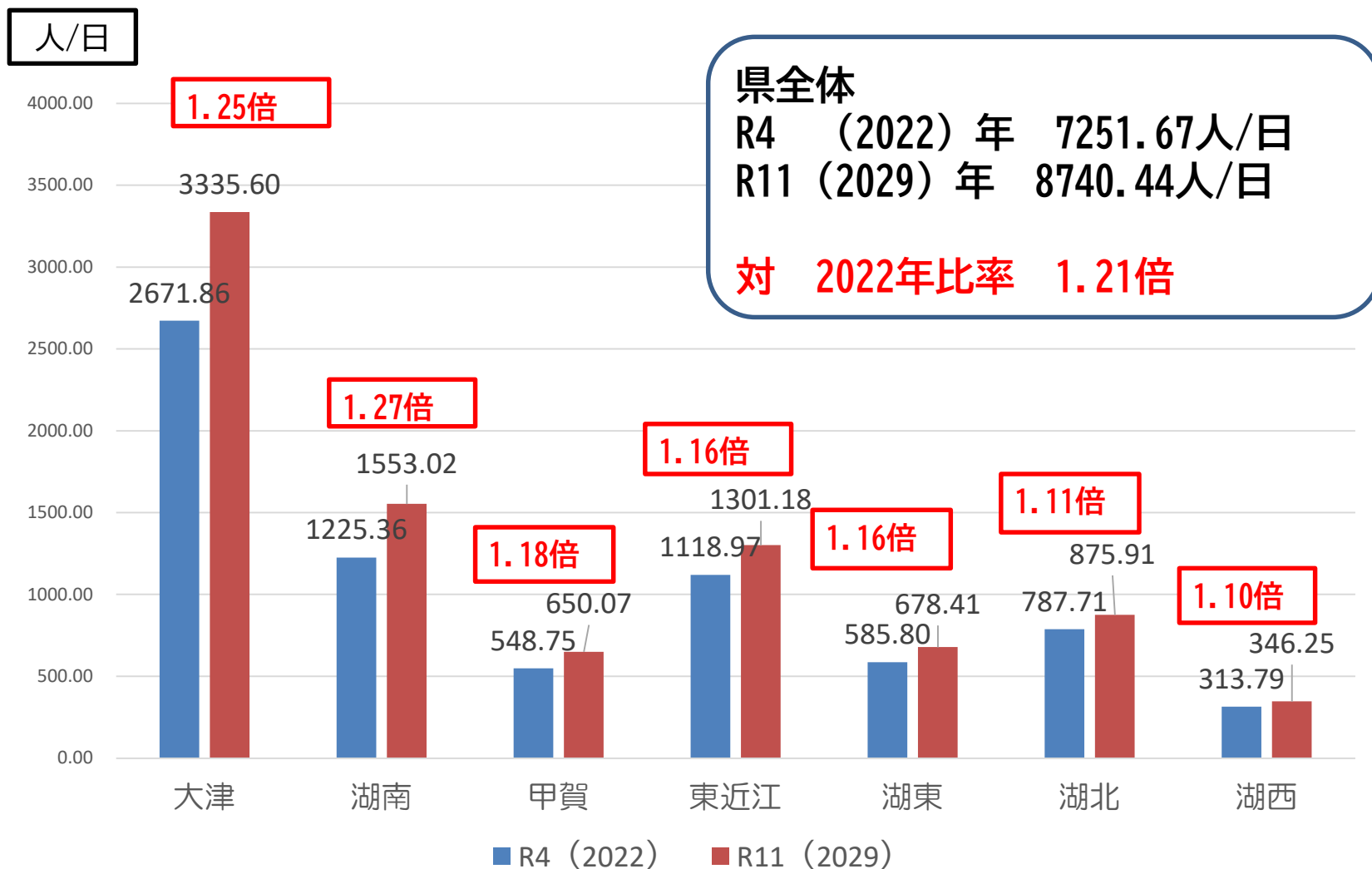


圏域別要介護認定者数の推移



* 2025年以降は、第1号認定率20.6%を用いた推計

2029年に向けた訪問診療の需要推計



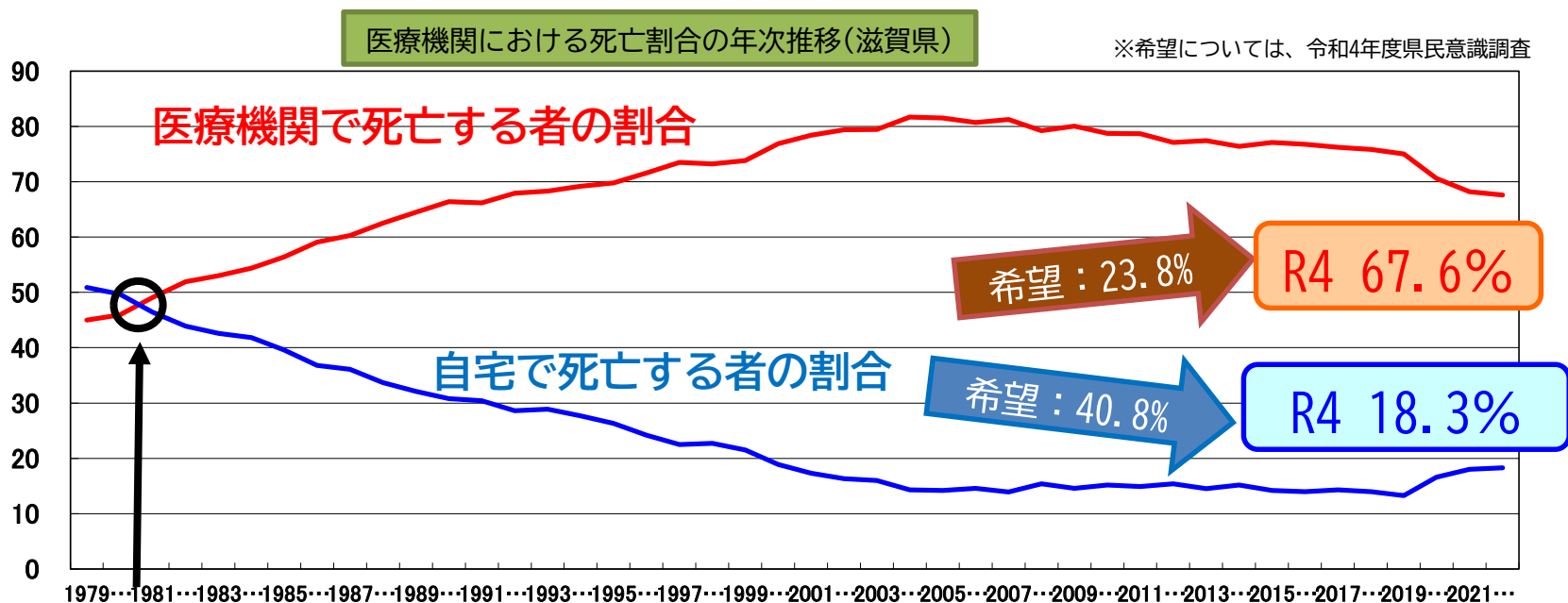
厚生労働省：2029年の介護施設、在宅医療等の追加的需要の機械的試算（患者住所地ベース）に基づき試算

医療機関における死亡割合の年次推移(滋賀県)

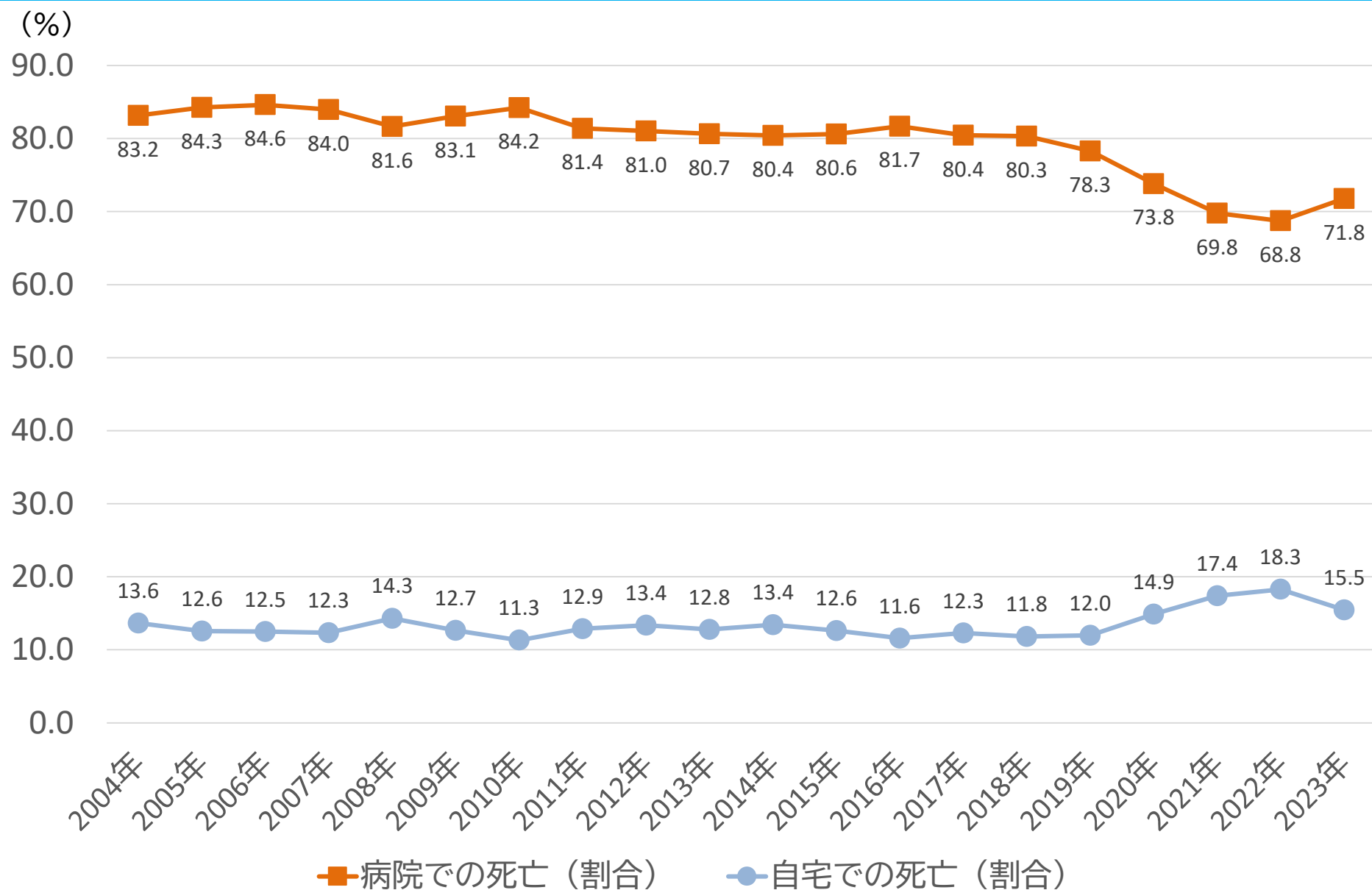
1973年の老人医療費支給制度による老人医療費の無料化、医療技術の高度化により生命をできるだけ維持することを念頭に置いた延命治療が可能となったことなどを背景に、病院で死亡する者の割合は年々増加し、1981年に自宅で死亡する者の割合を上回った。

その後、2007年の81.1%をピークに緩やかに減少し、新型コロナウイルスの流行を機に自宅での死亡が急激に増加し、2022年には病院での死亡は67.6%となった。

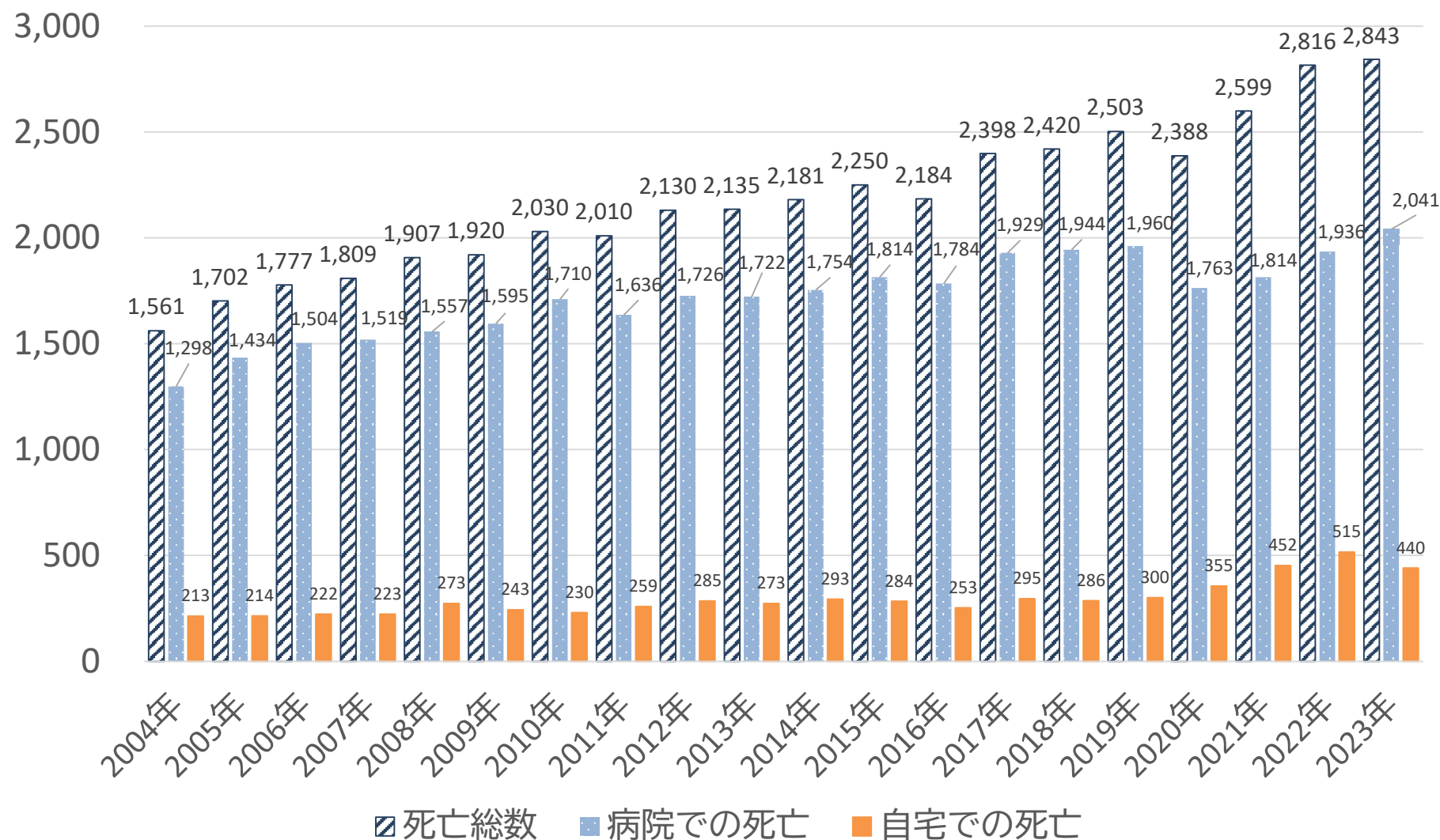
しかし、年間の死亡者数は、2012年の12,221人/年から2022年には15,043人/年と、10年間で約3000人増加しており、高齢者の増加に伴い、今後もさらなる増加が見込まれている。



湖南圏域の病院・自宅における死亡割合の年次推移



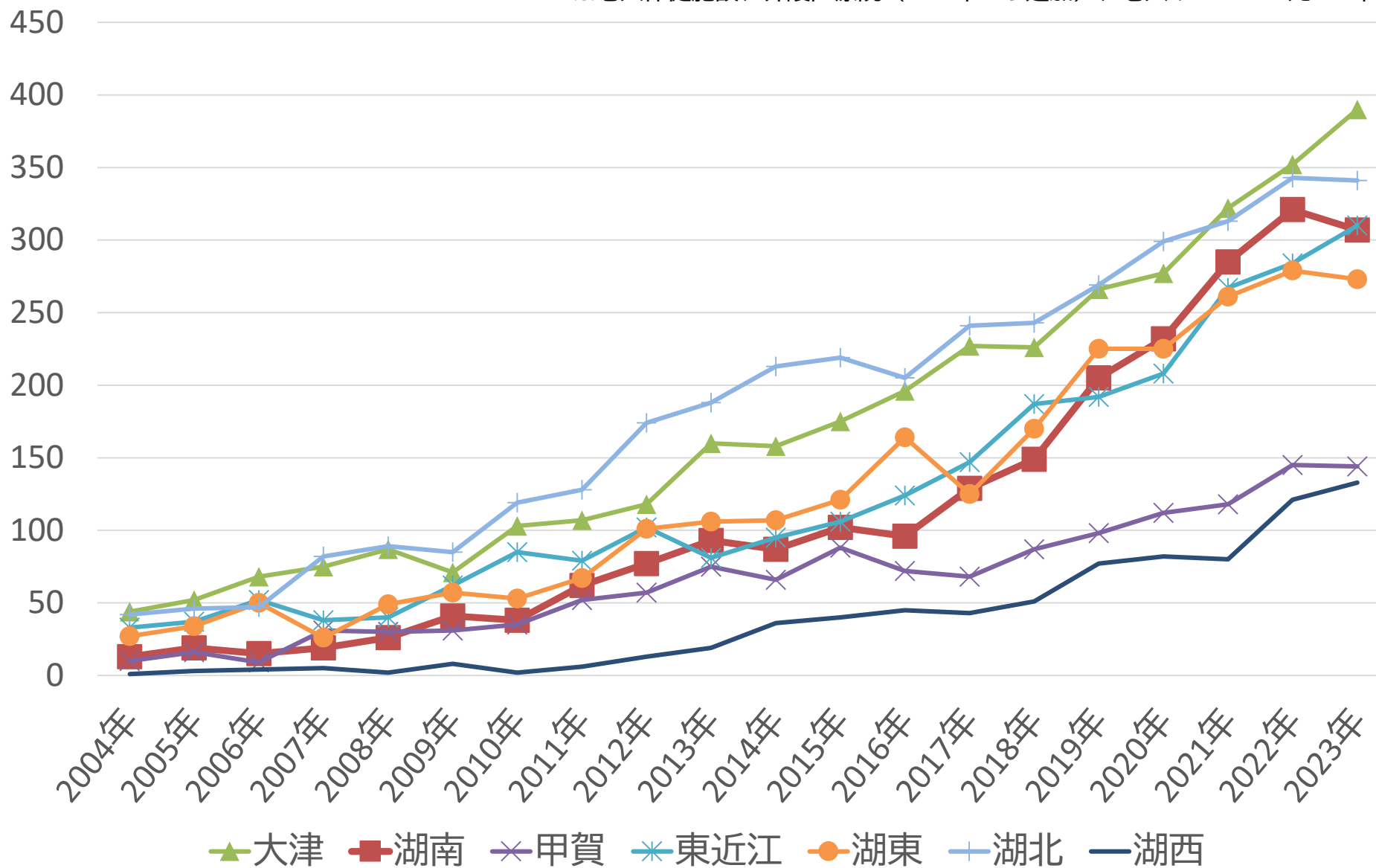
湖南圏域の病院・自宅における死亡数の年次推移



各圏域の病院・自宅以外※の死亡数の年次推移

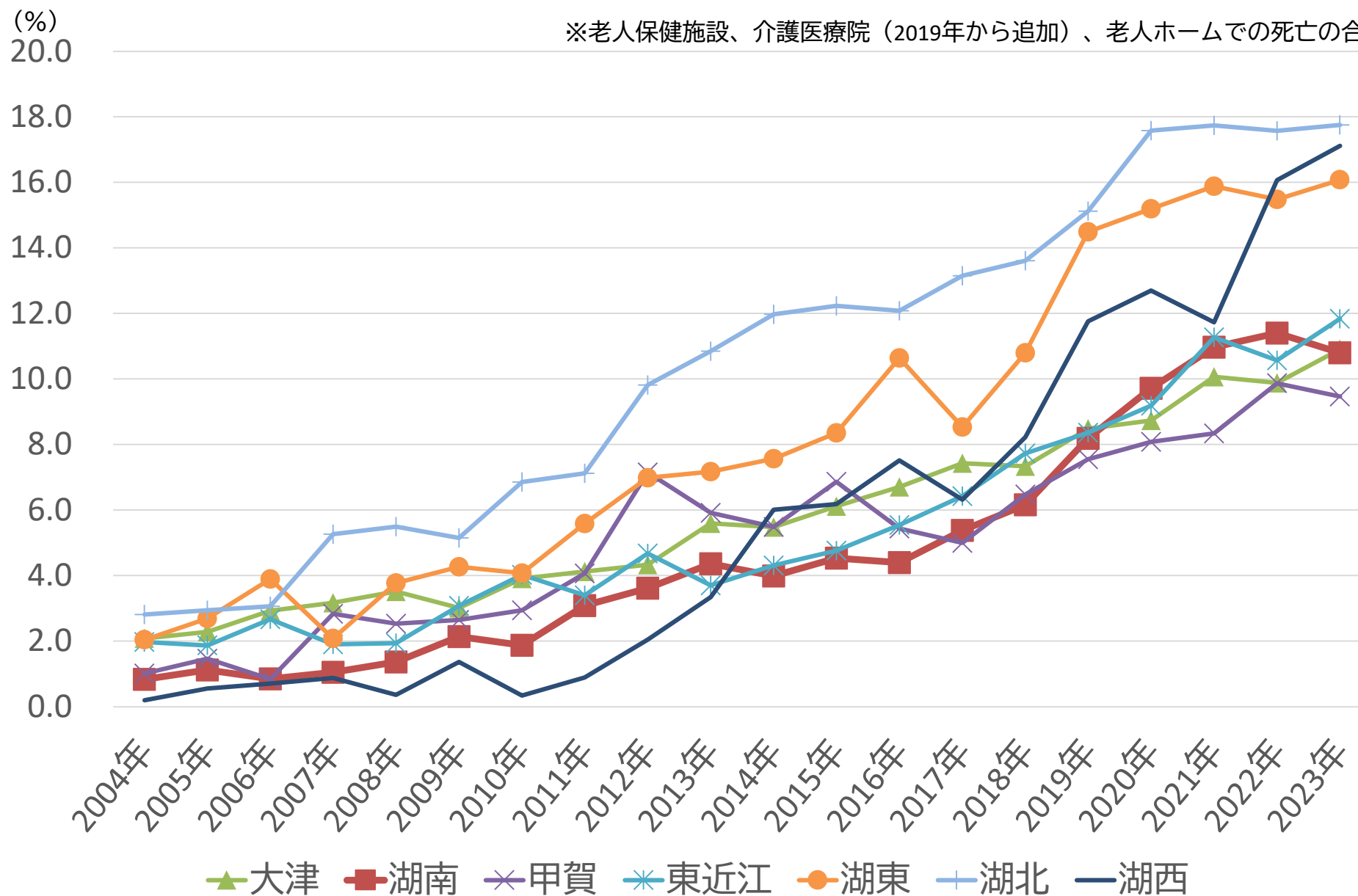
(件)

※老人保健施設、介護医療院（2019年から追加）、老人ホームでの死亡の合計



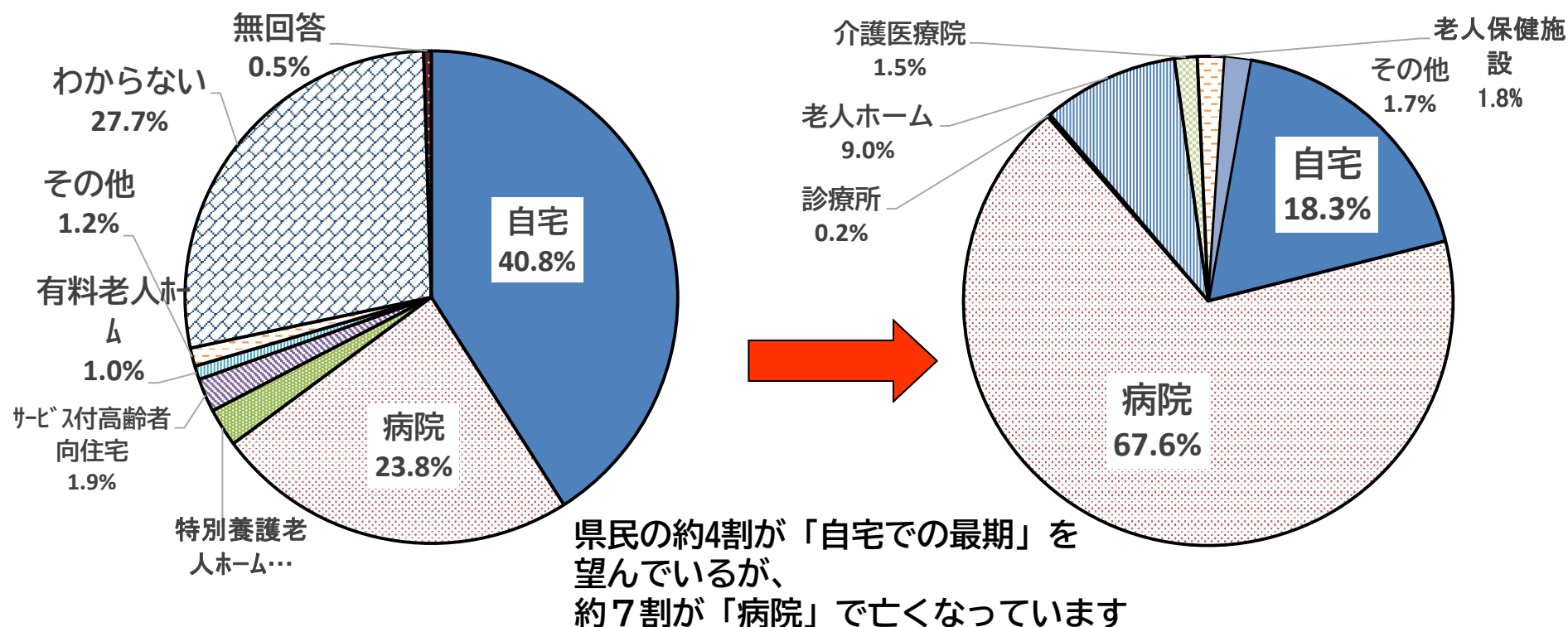
各圏域の病院・自宅以外※の死亡割合の年次推移

※老人保健施設、介護医療院（2019年から追加）、老人ホームでの死亡の合計



滋賀県民の看取り 理想と現実のギャップ

人生の最期をどこで迎えたいか？ 実際に最期を迎える場所

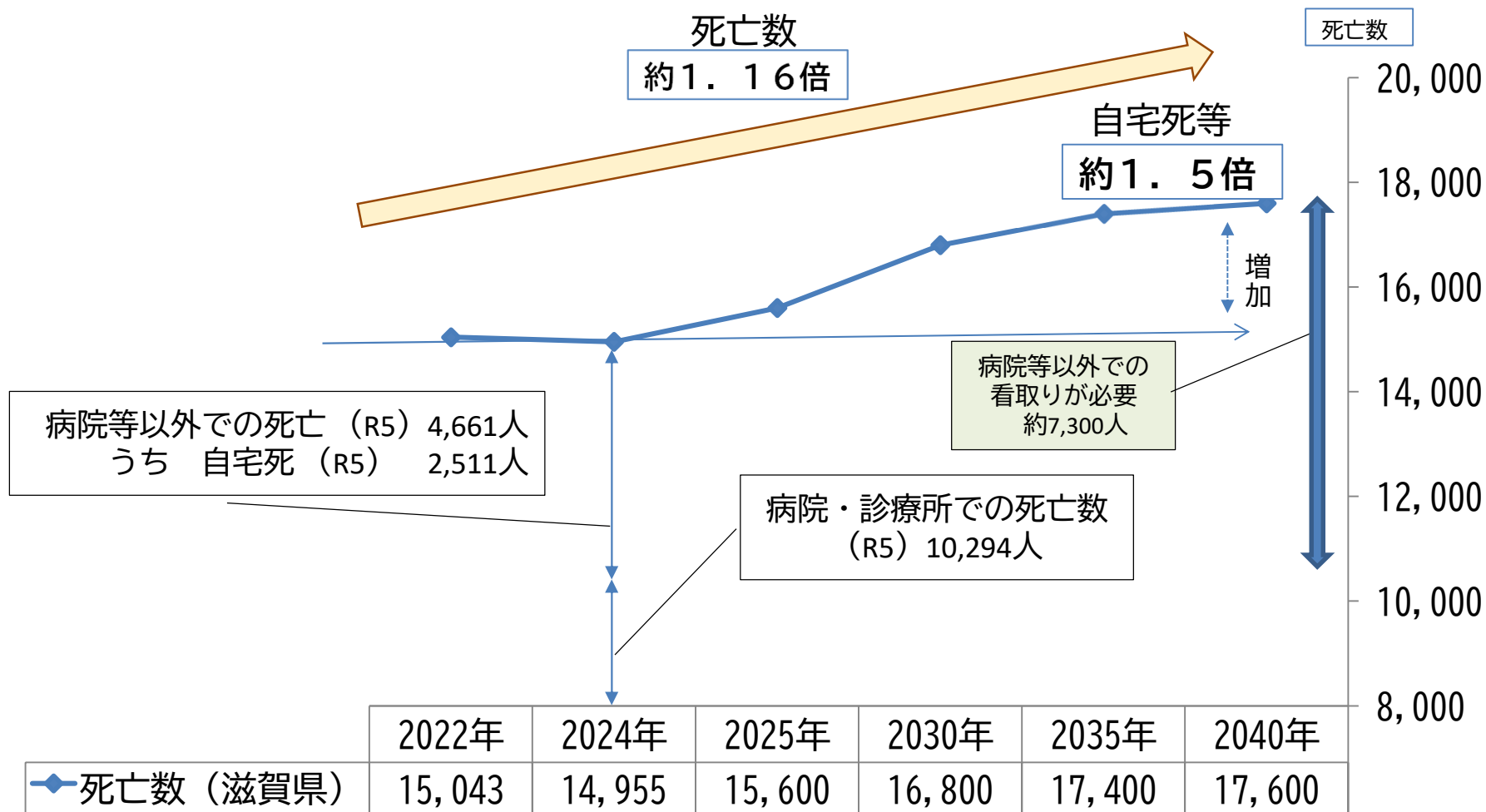


(左グラフ) 滋賀の医療福祉に関する県民意識調査(令和4年度)

(右グラフ) 令和4年滋賀県死亡数(場所別) 厚生労働省人口動態統計を元に作成

滋賀県の死亡数増加について（推計）

今後、病床数の増加は見込めないことから、死亡者数が年々増える中であって、
病院以外での看取りを必要とする人が自ずと増加する。（2035年には2019年の約2.5倍になると見込まれる。）



※2024年までは厚生労働省「人口動態調査による」

※2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所が発行する人口問題研究（第76巻第1号 2020年）より滋賀県により試算

湖南圏域医療福祉ビジョンが目指す地域の姿

～住民・地域のつながりや医療福祉関係者の協働のもとに～

基本目標①

将来を見据えた
主体的な健康づ
くりの推進

基本目標②

誰もが安心でき
る地域医療の確
保



基本目標③

最期まで安心し
て生活していく
ための支援体制
づくり

住民・地域・医療福祉の目指す姿に向けての取り組み

令和6年度湖南圏域医療介護連携フェスタ

<テーマ>

みんなで支える在宅（施設）療養
～地域と病院それぞれの視点からみる外来連携～

<目的>

病院と在宅（主にケアマネジャー）との連携について、医療と介護のスムーズな連携、切れ目のない支援が行える圏域を目指し、入退院支援および外来-地域連携の深化や連携の輪を広げる

湖南圏域医療介護連携 フェスタ2024



【プログラム】

I. 「湖南太郎さんの在宅療養 安心ロード外来－地域連携の実際」

(実践報告)病院-在宅療養支援-編

済生会守山市民病院 井上由美 氏

(実践報告)ケアマネジャー編

コープしがケアプランセンターぽこ野洲 岡田隆介 氏

II. 「訪問看護師がつなぐ在宅と外来」

訪問看護第2地区支部

訪問看護ステーションゆうき所長 佃 彩夏氏

【参加者】

医師:3人、看護師:48人、介護支援専門員:39人、
社会福祉士:9人、保健師:6人、生活相談員:4人、
介護福祉士:2人、薬剤師:2人、管理栄養士:1人、
施設長1人、作業療法士:1人、理学療法士:1人、
その他:6人 合計:123人